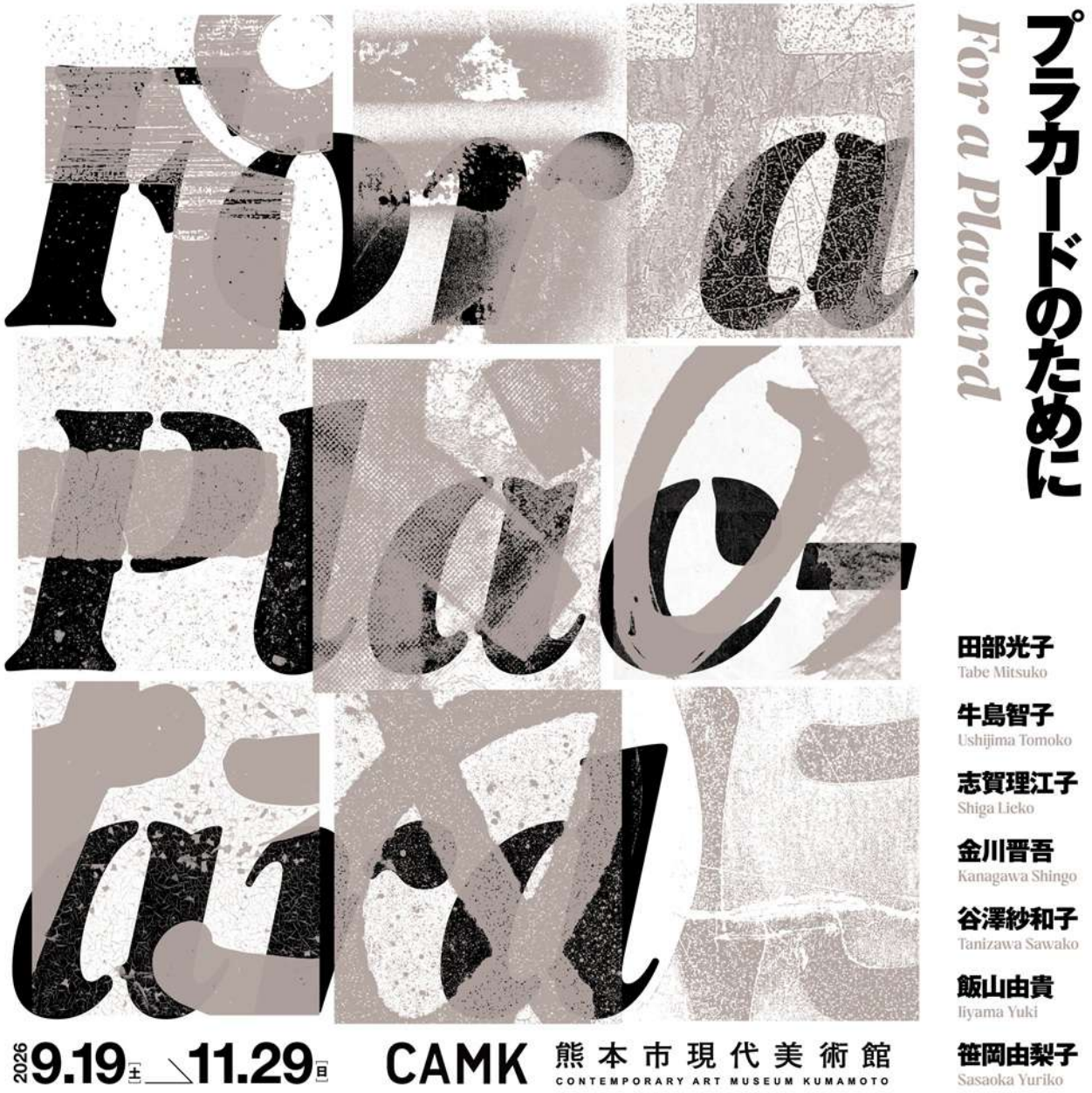


2024 年に死去した美術家・田部光子（1933〜2024）の言葉と作品を出発点に、個々の生活に根ざしながら、生きることや尊厳について考察してきた 7 名の作家の作品で構成される展覧会。
参加作家は、田部に加え、牛島智子、志賀理江子、金川晋吾、谷澤紗和子、飯山由貴、笹岡由梨子。映像、インスタレーション、写真、絵画、立体など多様な表現で、既存の制度や構造に問いを投げかけます。国立国際美術館展（2025 年 11 月 1 日〜 2026 年 2 月 15 日）より巡回開催（会場の特性にあわせ、出品点数および一部出品作品を変更し、展示を構成します）。

開催概要

タイトル：プラカードのために
会期　　：2026 年 9 月 19 日（土）～ 11 月 29 日（日）
会場　　：熊本市現代美術館 ギャラリー Ⅰ・Ⅱ（熊本市中央区上通町 2-3 びぷれす熊日会館 3 F）
開館時間：10:00－20:00（入場は 19:30 まで）
休 館 日 ：火曜日（ただし、9 月 22 日、11 月 3 日は開館）、9 月 24 日、11 月 4 日
観覧料　：一般 1,300 円（1,100 円）、シニア［65 歳以上］1,000 円（800 円）、
学生［高校生以上］800 円（600 円）、中学生以下無料

※（）内は前売／ 20 名以上の団体／電車・バス 1 日乗車券等を提示の料金
※各種障害者手帳をご提示の方と付き添いの方 1 名無料
※うぇるかむパスポートをご提示の方は無料
※前売り券は 9 月 18 日（金）まで販売

開館時間：10:00 ～ 20:00（入場は 19:30 まで）
主催　　：熊本市現代美術館（熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団）、国立国際美術館、
熊本日日新聞社
後援　　：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、
熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、JCOM マーケティング、
エフエム熊本、FM791
企画　　：国立国際美術館 主任研究員 正路佐知子

美術家・田部光子（1933-2024）は 1961 年に記した「プラカードの為に」と題した文章において、「大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作」り、その「たった一枚のプラカードの誕生によって」社会を変える可能性を語りました。過酷な現実や社会に対する抵抗の意思や行為、そしてそのなかに田部が見出した希望は、同年発表された作品《プラカード》に結実します。

この文章は、作品が生まれるまでの思考の過程を語ったものであると同時に、社会の動きを意識し活動するひとりの美術家の宣言としても読むことができます。「たった一枚のプラカード」とは、行き場のない声をすくいあげ、解放の出発点となるような、生きた表現の象徴でもあるのです。

田部の言葉と作品を出発点とする本展覧会は、それぞれの生活に根ざしながら、生きることと尊厳について考察してきた、田部を含む 7 名の作家の作品で構成します。作家たちは、これまで社会の中で覆い隠されてきた経験や心情に目を凝らし、思考し、そして自ら実践することで、既存の制度や構造に問いを投げかけます。彼女・彼らの作品を通じて、私たちを取り巻く社会やその歴史を見つめ直し、抵抗の方法を探りながら、表現することの意味にも立ち返ります。

一流労組のカンパニヤの為のプラカードは何故こうも右翼のそれと似かよっているのだろう。やはり二十代前後の莫大なエネルギーを擁しているはずなのに、こう云ふものはとても古くさい。現在すべての組織が次々に封じ込められて行く原因はこんなところにもある。おくればせながらも、大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作って見ようか、高らかな笑いのもとに星条旗を破る為のカンパニヤが組織できないだろうか？　それもたった一枚のプラカードの誕生によって――だったらすばらしい。そして人工胎盤ができたら、始めて女性は、本質的に解放されるんだけれど。（原文ママ）

―田部光子「プラカードの為に」『九州派 5』1961 年 9 月 10 日発行

本展の見どころ

◎時を超える声と実践

「プラカードの為に」で言及される《プラカード》と《人工胎盤》は、1961 年 9 月 14 ～ 19 日に東京の銀座画廊で開催された「九州派展」に出品されました。
《プラカード》は 5 点から成るコラージュ作品（すべて 1961 年作。3 点が東京都現代美術館蔵、2 点が福岡市美術館蔵）で、労働争議での実体験をはじめ、三池争議や安保闘争、公民権運動、コンゴ動乱など同時代の出来事を背景に制作されています。支配的な構造に抗う「大衆のエネルギー」を表す本作は、襖を支持体に、コラージュやキスマークを施すなど、従来の美術の形式や素材にも挑戦しています。
一方、《人工胎盤》（1961 年作は現存せず。熊本市現代美術館が 2004 年の再制作を所蔵）は妊娠初期のつわりの経験や、女性が社会において直面するさまざまな不平等から発想された作品です。近年、フェミニズム・アートの先駆的作品としても評価されています。
本展では、再評価の進む田部光子の作品 26 点を展示します。



田部光子《プラカード》1961 年、東京都現代美術館蔵



田部光子《人工胎盤》1961/2004 年、熊本市現代美術館蔵

◎今を生きる 6 作家の声と実践

本展覧会では、物故作家の田部に加え、近年特に注目すべき活動を行ってきた牛島智子、志賀理江子、金川晋吾、谷澤紗和子、飯山由貴、笹岡由梨子による、映像、インスタレーション、写真、絵画、立体など、多様な手法の作品で構成します。

牛島智子は、変形カンバスによる絵画制作と、拠点とする地域の産業や歴史に根ざした素材を支持体に用いるインスタレーションの制作を続けてきました。過去に発表した詩や言葉を不定形の和紙に書き写した「変形和紙文字」は、近年取り組むシリーズのひとつで、牛島の思考の一端を開示するものです。
本展では「変形和紙文字」を構成要素のひとつとし、日々の生活と制作行為を重ねたインスタレーション《ひとりデモタイ 箒＊筆＊ろうそく》を展示します。



牛島智子個展「トリへのへんしん」展示風景、2022 年、旧八女郡役所
写真：長野聡史 ©Nagano Satoshi

志賀理江子は2011年の東日本大震災で被災し「復興」のありかたに圧倒された経験から、人間の精神とその根源に迫る作品を制作してきました。
本展では、宮城県での生活のなかで志賀が紡いできた言葉や、抵抗となりうる行為をもとに、2022 年に制作された映像インスタレーションを新たに再編集した《風の吹くとき》（2022-25 年）のほか、2 点の写真作品を展示します。



志賀理江子《風の吹くとき》2022-2025 年、
国立国際美術館蔵　©liekoshiga

金川晋吾は近年、写真作品や文章、あるいはワークショップを通して、個人的な事柄を公に向けて示す試みを続けてきました。本展では現在進行形で取り組む二つのシリーズ「祈り／長崎」「明るくていい部屋」をご覧いただきます。
いずれも、私たちが生きる上で避けがたく、しかしそれゆえに規範化されがちな「家族」や「信仰」等のイメージを、金川自身の身体そして生き方を通して、とらえ直す作品です。



金川晋吾《祈り／長崎、セルフポートレート》2022 年、
国立国際美術館蔵　©Shingo Kanagawa

谷澤紗和子の「ちいさいこえ」は、陶紙で作られた小さな「プラカード」です。歴史のなかでかき消されてきた声を可視化しながら、対峙する者の「力」や「大きさ」を問う作品です。
本展ではこのほか、美術史において周縁化されてきた切り紙の手法を用い、女性の表現者の先達たちと仮想の対話を試みた「はいけいちえこさま」シリーズや《目の前に開ける明るい新しい道》を展示します。



谷澤紗和子個展「ちいさいこえ」展示風景、2023 年、FINCH ARTS
©Sawako Tanizawa, Photo by Haruka Oka, Courtesy of FINCH ARTS

飯山由貴は記録資料や聞き取りを糸口に、個人と社会・歴史の関係を考察し、作品を制作してきました。《海の観音さまに会いにいく》（2014/2020 年）は、精神に障害を持つ妹の幻覚や幻聴を受けとめ、彼女にしか見えない世界を家族とともに見ようとした映像作品です。他者の声に耳を傾け、その経験に歩み寄り、共に行動する試みを記録した初期作品をはじめ、これらに連なる近年の作品展開を紹介します。
また、国立国際美術館で展示された《In-Mates》（2019 年）を、熊本では上映会形式にてご覧いただけます。会期中 3 回開催し、各回アフタートークを予定しています。



飯山由貴《海の観音さまに会いにいく》2014/2020 年、
写真：宮澤響、飯山由貴
国立国際美術館蔵　©Iiyama Yuki

笹岡由梨子は人形劇や CG 合成、自作の歌、手作業による装飾を用い、固定化された枠組や見方に揺さぶりをかける映像作品を制作してきました。本展では初期の映像作品と、2026 年の新作《Working Pig》を展示します。後者は、古いぬいぐるみから再生したブタが歌いながら、観客である人間に労働の意味や構造について問いかけます。



笹岡由梨子個展「Animale」展示風景、2025 年、PHD Group、香港
Courtesy of the artist and PHD Group. Photo by Felix SC Wong.

それぞれの制作の背後には、私たちの生活の身近にいまだある、生きづらさを生む社会とその歴史へのまなざし、制度や権力による選別や排除に対する抵抗、周縁に置かれた存在の尊厳についての考察があります。彼女・彼らの表現は、過去や現状を問い直すだけでなく、この現実と未来に働きかける力を有していると言えるでしょう。さらに、そうした実践を支える、造形の力やイメージの強度、素材や技法の選択にも注目いただきます。

◎作家たちの実践が交差する展覧会

本展覧会では 7 名の作品が展示空間で交錯し、ときに干渉し、響き合います。重なりあい、ぶつかりあうイメージや声のなかから、抵抗の方法を見出すことができるでしょう。「たった一枚のプラカード」が象徴する生きた表現。作家たちの実践が交差する場をぜひ体感してください。

出品作家略歴

田部光子　Tabe Mitsuko

1933 年日本統治下の台湾に生まれ、1946 年福岡に引き揚げ、以後同地を拠点に活動。2024 年没。前衛芸術集団「九州派」の発足時から主要メンバーとして参加。生活者としての実体験をもとに社会への問いやメッセージを表現に託し、2010 年代まで旺盛な制作・発表を続けた。

牛島智子　Ushijima Tomoko

1958 年福岡県生まれ。1981 年大学卒業後に上京し、B ゼミに入所。個展を重ね、変形カンバスによる絵画を発表。90 年代末に福岡・八女に拠点を移してからは、生活や地域の産業・歴史に根ざした素材も用い、表現を日常の基盤として捉え、作品を制作する。

志賀理江子　Shiga Lieko

1980 年愛知県生まれ。2008 年に宮城県の北釜へ移住。人々や風景との出会いを通して、社会と自然、死と生、何代にも遡る記憶などをテーマに制作を続ける。2011 年の東日本大震災で被災し「復興」に圧倒された経験から、人間の精神とその根源へと深く潜り、迫る作品へと展開する。

金川晋吾　Kanagawa Shingo

1981 年京都府生まれ。最も身近な他者と言える父親や叔母を被写体に、個としての姿を尊重し、捉えた写真を発表。近年は複数人で生活する日々を記録した写真やセルフポートレートの発表、文筆活動、ワークショップを通じて、個人的な経験や思考を社会へ開く実践を続けている。

谷澤紗和子　Tanizawa Sawako

1982 年大阪府生まれ。美術制度の外に置かれてきた素材や技法を用い、想像力を解放する装置としての作品を制作する。近年はジェンダーの視点から切り紙に携わった先達の作品や足跡を追い、マジョリティ中心の社会においてかき消されてきた声に着目した作品を発表している。

飯山由貴　Iiyama Yuki

1988 年神奈川県生まれ。記録資料や聞き取りを糸口に、個人と社会・歴史の関係を考察し、作品を制作。社会的スティグマが作られる過程や、その経験が語り直されることによる痛みや回復に関心を寄せ、近年は多様な背景を持つ市民やアーティスト、専門家とも協働し活動している。

笹岡由梨子　Sasaoka Yuriko

1988 年大阪府生まれ。絵画と映像、現実と虚構、生と死の間を探るべく、人形劇やローテクな CG 合成、自作の歌、手作業による装飾を用いた映像インスタレーションを制作。作品内では様々なキャラクターを演じ、身体パーツを複数化し、固定化された枠組や見方に揺さぶりをかける。

関連イベント

○開会式・内覧会

日時：2026 年 9 月 18 日（金）17:00 〜（予定）
会場：ホームギャラリー

○アーティストトーク

本展出品作家によるアーティストトーク、クロストークを開催します。

日時　：2026 年 9 月 19 日（土）13:30 〜 15:30（予定）
会場　：ホームギャラリー
登壇者：牛島智子、志賀理江子、金川晋吾、谷澤紗和子、
　　飯山由貴、笹岡由梨子（以上、本展出品作家）、
　　正路佐知子（国立国際美術館　主任研究員）
定員　：90 名（当日先着順）
参加費：無料

○開催記念講演会

本展覧会企画者の正路佐知子さんに、展覧会企画意図や見どころ、
田部光子をはじめとする出品作家についてお話していただきます。

日時　：2026 年 9 月 20 日（日）14:00 〜 15:30
会場　：ホームギャラリー
講師　：正路佐知子（国立国際美術館 主任研究員）
定員　：90 名（当日先着順）
参加費：無料

＊そのほかイベントの最新情報は美術館ホームページで随時お知らせいたします

記者発表

2026 年 9 月 18 日（金）13：30 〜

＊一般公開 9 月 19 日（土）10：00 〜

タイムスケジュール

13：00　受付開始

13：30　記者発表・内覧会開始

・会場案内（担当学芸員によるツアー形式／約 30 分）

・個別取材・撮影タイム（約 60 分）

15：00　会場クローズ

＊記者発表および内覧会へご参加予定の方は事前にご一報ください。

注意事項

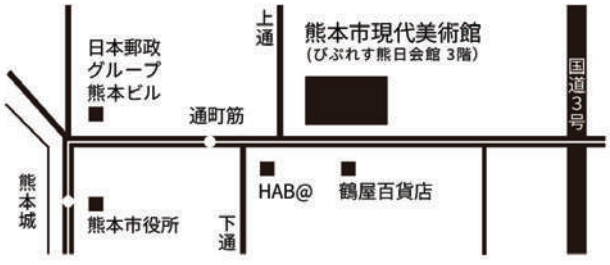
＊作品保護のため、館内では鉛筆をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。
（ボールペン･シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。）

＊作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、ご注意をお願いいたします。
（会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください。）

＊受付にてお名刺を 1 枚頂戴いたします。お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。

お問い合わせ先

熊本市現代美術館　学芸担当：稲垣 向日葵・冨澤 治子・井田 智子　広報担当：穴瀬 聖
〒860-0845　熊本市中央区上通町 2－3　びぷれす熊日会館 3 階
TEL：096-278-7500　　FAX：096-359-7892　E-mail：gamadas@camk.or.jp



・美術館入口（びぷれす熊日会館 3 階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩 1 分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
・「びぷれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。
広報担当からご連絡いたします。
① 掲載媒体・掲載時期
② 希望画像 No.
③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

【使用に際しての注意事項】
＊使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。
　ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。
　第三者への譲渡は禁止します。
＊必ず下記の **作品キャプション・クレジットを明記** してください。
＊トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
＊再放送、転載など 2 次利用をされる場合には、別途申請いただきますようお願い致します。
＊基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で担当までお送りいただきますよう
　お願い致します。
＊掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。
　（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）
＊会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は広報担当までご連絡ください。

1. 田部光子《プラカード》1961 年、東京都現代美術館蔵
1-2. 《プラカード》、《人工胎盤》前の田部光子、1961 年、「九州派展」(銀座画廊 / 東京都)
1-3. 田部光子《人工胎盤》1961/2004 年、熊本市現代美術館蔵
2. 牛島智子個展「トリへのへんしん」展示風景、2022 年、旧八女郡役所
　写真：長野聡史 ©Nagano Satoshi
3. 志賀理江子《風の吹くとき》2022-2025 年、国立国際美術館蔵　©liekoshiga
4. 金川晋吾《祈り／長崎、セルフポートレート》、2022 年、国立国際美術館蔵　©Shingo Kanagawa
5. 谷澤紗和子個展「ちいさいこえ」展示風景、2023 年、FINCH ARTS
　©Sawako Tanizawa, Photo by Haruka Oka, Courtesy of FINCH ARTS
6. 飯山由貴《海の観音さまに会いにいく》2014/2020 年、写真：宮澤響、飯山由貴
　国立国際美術館蔵　©Iiyama Yuki
7. 笹岡由梨子個展「Animale」展示風景、2025 年、PHD Group、香港
　Courtesy of the artist and PHD Group. Photo by Felix SC Wong.

画像一覧

1.



1-2.



1-3.



2.



3.



4.



5.



6.



7.

